組曲新聞　成長　～「あい」をつなぎ、誇れる組曲を～

十九代目広報部門発行

印象に残ったこと

前回の組曲では衣装合わせがありました。その前に校長先生からこれからの組曲についてお話していただきました。校長先生のお話でとくに印象に残ったことは「今回の組曲では今までとは違うことが多い。やるのとやらないのではまったく違うことだ。一生懸命やることが大切」とおっしゃっていたことです。広報部門も、新しい取り組みとして、動画を作成しています。コロナの臨時休校で三月公演、六月公演と出来なかったため、今までの分の組曲を動画にし、発信しようと考えています。完成した動画をぜひお楽しみください。

衣装合わせ感想

千葉さん　緊張感が高まったし、一気にやる気がでた。本番が近いことを感じた。

蜂谷さん　帯の結び方を忘れていたので不安。

前場君　やっと雰囲気が出て、さらに集中して取り組みたいと思った。

松山君　いよいよ自分の代になれたと感じた。

杉本君　初めてで分からなかったけど一緒になって組曲の準備ができてよかった。

ラストスパートどんなふうにがんばっていく？

貫名君　皆動きがそろい始めていていいと思う、皆声が出るようになっている、完ぺきにそろえられることとキレをだしていきたい。

赤迫さん　大変な所もあるけど合わせたらいい出来になると思います。全員の動きのそろった踊りをするのが目標なので達成できるように頑張ります。

渡辺さん　できる所とできていない所があって今、確実にできるようにしている所です。女だからこそのしなやかさと細かい所を大切にしていく。

組曲通し

私たちが組曲の通しをしていくなかで、山田先生・金森先生がおっしゃっていたことがあります。山田先生は、『練習したり通しをしたりする機会が少ないので一回一回の練習の質を上げるようにする』金森先生は、『皆と合わせる　皆が主役』とおっしゃっていました。それを聞いた後、皆の演技を見ていると一人一人がその言葉を意識し、通しをしていたように思いました。